株式会社フコク(東証プライム:5185)
2026年11月18日

# 第2四半期決算説明会

## 2027年3月期

Yes, We Do!

Copyright © Fukoku Co., Ltd.
All Rights Reserved.

本日は、お忙しい中、株式会社フコクの2027年3月期第2四半期決算説明会を
ご視聴いただき、誠にありがとうございます。
本日の説明をさせていただきます株式会社フコク社長の大城でございます。

日頃から、フコク製品をご愛顧戴いている全てのお客様、株主の皆様、私達の
企業活動を支えていただいている全ての関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

説明の順番ですが、資料に基づき説明した後、皆様からのご質問にお答えいたします。

ご質問はチャットにて受け付けますので、ご質問のある方は画面右側より
入力をお願いします。

それでは、始めさせていただきます。

## Agenda



1. 決算のポイント
2. 2027年3月期第2四半期実績/2027年3月期業績予想
3. セグメント別・地域別の状況
4. 株主還元
5. 事業の取り組みの進捗
6. 次期中期経営計画に向けて

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ご覧の通り、決算のポイントを簡単にご説明した後、
2027年3月期の第２四半期実績及び通期業績予想、
セグメント・地域別の状況、株主還元、そして事業の取り組みの進捗、
最後に、次期中期経営計画に向けて、の順番でご説明させていただきます。

# 1. 決算のポイント

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

まず決算のポイントについて、ご報告いたします。

## 1. 決算のポイント



### 2027年3月期第2四半期実績

売上高： **増収** 機能品事業、防振事業、ホース事業の売上高が堅調に推移
営業利益：**増益** 売上増に加え、**生産性向上や価格適正化努力**および**赤字低採算製品の削減効果**が、原材料費や労務費等の上昇による影響を上回った

### 2027年3月期通期業績予想

当中間期までの**中東情勢が当社業績に与える影響**、また原材料等上昇に対する**売価反映**の取組状況、および、これらの**第3四半期以降の業績への影響**等を考慮し**上方修正**

世界情勢また自動車業界は不透明な状況下ではあるものの、当社は収益の拡大と資本効率の向上を最優先とし、次の成長に向けた変革に取り組んでおり、一定の成果が見えてきている

**売上高** 850億円 → **900**億円　**営業利益** 33億円 → **40**億円 へ

### 配当

中間配当は当初計画通り**50円**
期末配当も当初計画通り**50円**とし、通期で前年より**15円増配の100円** を計画

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2027年3月期第２四半期の売上高は、機能品事業、防振事業、ホース事業の売上高が堅調に推移し、増収となりました。

営業利益については、売上増に加え、生産性向上や価格適正化努力、および赤字低採算製品の削減効果が、原材料費や労務費等の上昇による影響を上回り、増益となりました。

これらを受けまして、通期の予想は、当中間期までの中東情勢が当社業績に与える影響、また原材料費等の上昇に対する売価反映に関する取組状況、および、これらの第3四半期以降の業績への影響等を考慮し、売上高は当初予想の850億円から900億円へ、営業利益は当初33億円から40億円へ上方修正いたしました。

世界情勢、また自動車業界は不透明な状況下ではあるものの、当社は収益の拡大と資本効率の向上を最優先とし、次の成長に向けた変革に取り組んでおり、一定の成果が見えてきております。

また、配当につきましては当初計画通り、中間配当は50円、期末配当は50円、年間配当金は前年比15円増配の100円としております。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に2027年3月期第2四半期の実績、及び、通期業績予想について
報告いたします。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

FUKOKU



### 第2四半期業績 概要

（単位：百万円）
※pp＝パーセンテージポイント

| | 2026年3月期 第２四半期 実績 | 2027年3月期 第２四半期 実績 | 前年増減額 | 前年増減率 |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 44,372 | 46,769 | 2,397 | +5.4% |
| 営業利益 | 1,549 | 2,494 | 945 | +61.0% |
| （売上高対営業利益率） | (3.5%) | (5.3%) | (+1.8pp) | |
| 経常利益 | 1,527 | 2,665 | 1,138 | +74.5% |
| （売上高対経常利益率） | (3.4%) | (5.7%) | (+2.3pp) | |
| 当期純利益* | 948 | 1,658 | 710 | +74.9% |
| （売上高対当期純利益率） | (2.1%) | (3.5%) | (+1.4pp) | |

**増収に加え、生産性向上や価格適正化および赤字低採算製品の削減の効果が、原材料費や労務費等の上昇による影響を上回る**

*親会社株主に帰属する中間期純利益

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

第２四半期の実績は、ご覧の通り、売上高は前年同期比5.4%増の467億69百万円となりました。

営業利益については、増収に加え、生産性向上や価格適正化および赤字低採算製品の削減の効果により、前年同期比61%増の24億94百万円となりました。

経常利益については、同74.5%増の26億65百万円、当期純利益は同74.9%増の16億58百万円となりました。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想



### 通期業績予想　概要

（単位：百万円）
※pp＝パーセンテージポイント

| | 2026年3月期 通期実績 | 2027年3月期 通期予想（修正） | 前年増減額 | 前年増減率 |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 90,025 | 90,000 | △ 25 | △0.0% |
| 営業利益 | 3,806 | 4,000 | 194 | +5.1% |
| （売上高対営業利益率） | （4.2%） | （4.4%） | （+0.2pp） | |
| 経常利益 | 3,864 | 4,000 | 136 | +3.5% |
| （売上高対経常利益率） | （4.3%） | （4.4%） | （+0.1pp） | |
| 当期純利益 | 1,144 | 2,800 | 1,656 | +144.6% |
| （売上高対当期純利益率） | （1.3%） | （3.1%） | （+1.8pp） | |

**第2四半期までの中東情勢影響、売価反映の取組状況、これらの第3四半期以降の業績影響等を考慮し、上方修正**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

通期業績予想は、売上高900億円、営業利益40億円、経常利益40億円、
当期純利益28億円といたしました。

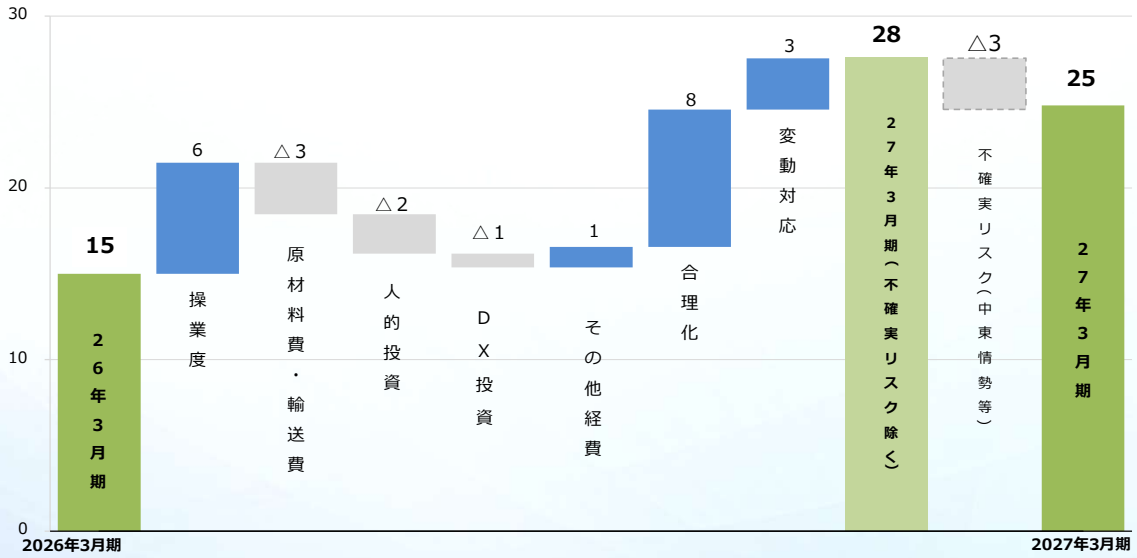
第2四半期までの中東情勢影響、売価反映の取組状況、および、
これらの第3四半期以降の業績への影響等を考慮して、上方修正しております。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想



（単位：億円）

第2四半期実績　差異要因 営業利益（前期比）




**増収と合理化・変動対応の効果、中東情勢影響を想定より抑制したこと等により増益**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは第２四半期の連結営業利益の対前年比増減を要因別に示したものです。

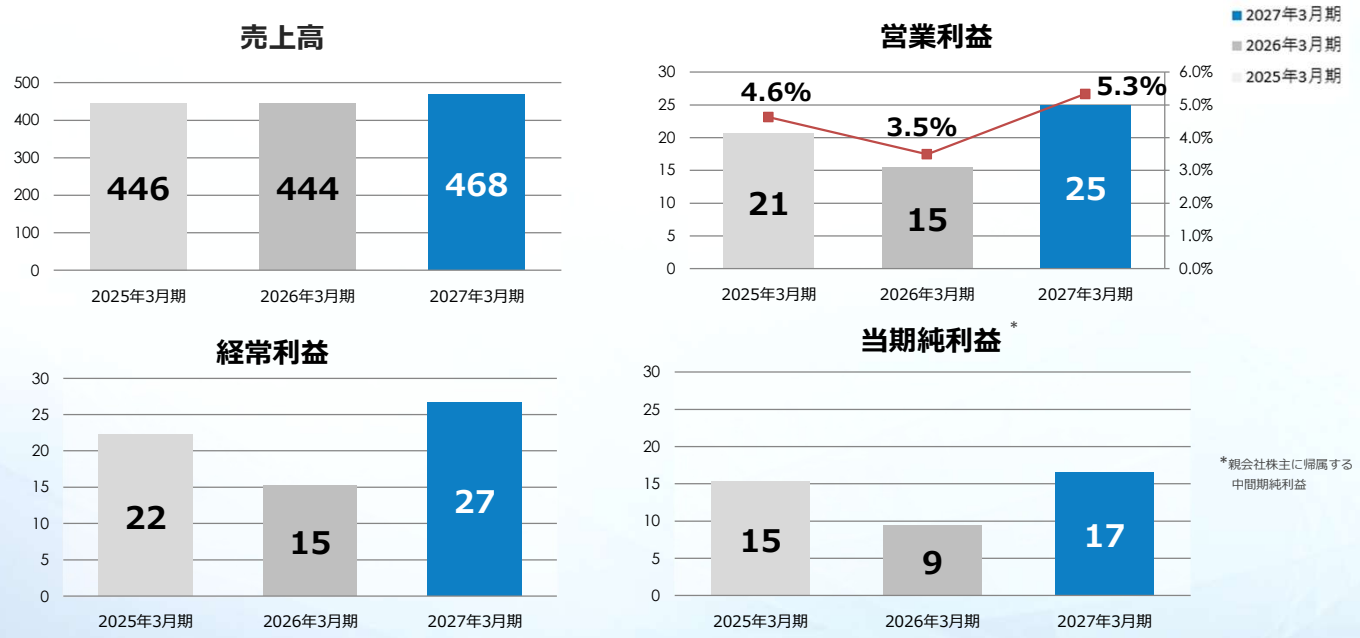
操業度、合理化、変動対応で合わせて17億円のプラスに働いたことに加え、中東情勢等の不確実リスクの影響を想定より抑えることができたことから、増益となりました。

なお、合理化においては、生産性向上に向けた、主力製品の生産ラインの自動化、赤字・不採算製品の削減などを進めております。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想



第2四半期実績推移




2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去3年間の第２四半期の実績を示したものです。

売上高は増収、営業利益は、増収に加え、生産性向上や価格適正化および、
赤字低採算製品の削減の効果などにより、増益となりました。
営業利益率についても前期比でプラス1.8ポイント上昇しております。

また、経常利益、当期純利益も同様に増益となっております。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想



### 財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

| PL | 2025年9月期 実績 | 2026年9月期 実績 | 前年増減額 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 44,372 | 46,769 | 2,397 |
| 営業利益 | 1,549 | 2,494 | 945 |
| 経常利益 | 1,527 | 2,665 | 1,138 |
| 当期純利益 | 948 | 1,658 | 710 |

| BS | 2026年3月期 実績 | 2026年9月期 実績 | 前年増減額 |
|---|---|---|---|
| 流動資産計 | 48,043 | 49,314 | 1,271 |
| 固定資産計 | 33,643 | 34,393 | 750 |
| 資産計 | 81,686 | 83,708 | 2,022 |
| 負債計 | 37,881 | 38,505 | 624 |
| 自己資本 | 40,869 | 42,266 | 1,397 |
| 純資産計 | 43,805 | 45,203 | 1,398 |
| 負債・純資産計 | 81,686 | 83,708 | 2,022 |

| CF | 2025年9月期 実績 | 2026年9月期 実績 | 前年増減額 |
|---|---|---|---|
| 営業活動によるＣＦ | 3,944 | 3,871 | △ 73 |
| 投資活動によるＣＦ | △ 2,964 | △ 3,307 | △ 343 |
| 財務活動によるＣＦ | △ 1,557 | △ 435 | 1,122 |
| フリー・キャッシュ・フロー | 980 | 564 | △ 416 |

- 売上高は、機能品事業、防振事業、ホース事業が堅調に推移
- 資産の増加は販売伸長による売掛金増による
- 純資産の増加は売上伸長による利益剰余金の増加による
- 財務活動によるCFは増加
  将来の金利上昇を見据え、資金調達の長期化および金利固定化を推進

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

財政状態の状況は、ご覧の通りとなります。

バランスシートについては、売上伸長による売掛金の増加、利益剰余金の増加により総資産の拡大となっております。

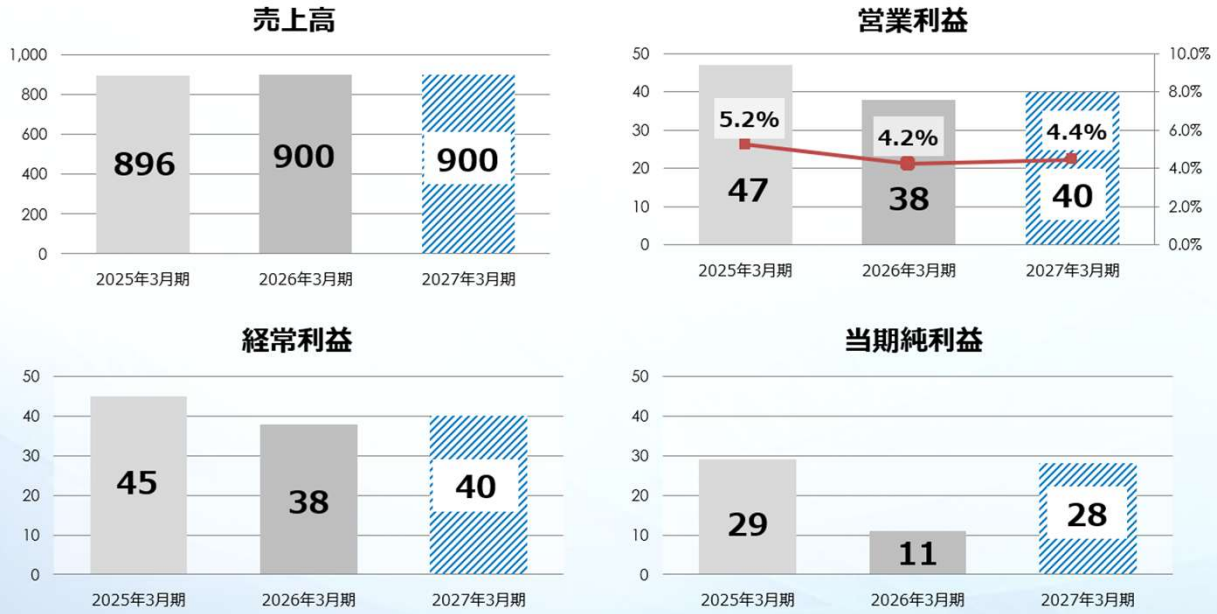
キャッシュフローについては、将来の金利上昇を見据え、資金調達の長期化および金利固定化などの施策を推進して、増加しております。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想



通期業績予想推移

（単位：億円）




2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

こちらは通期の過去2年間の推移と今期の業績予想となります。

先の説明の通り、当中間期までの中東情勢が当社業績に与える影響、
また原材料等の上昇に対する売価反映に関する取り組み状況、および、
これらの第3四半期以降の業績への影響等を考慮し、
売上高は当初予想の850億円から900億円へ、営業利益は33億円から40億円へ上方修正いたしました。

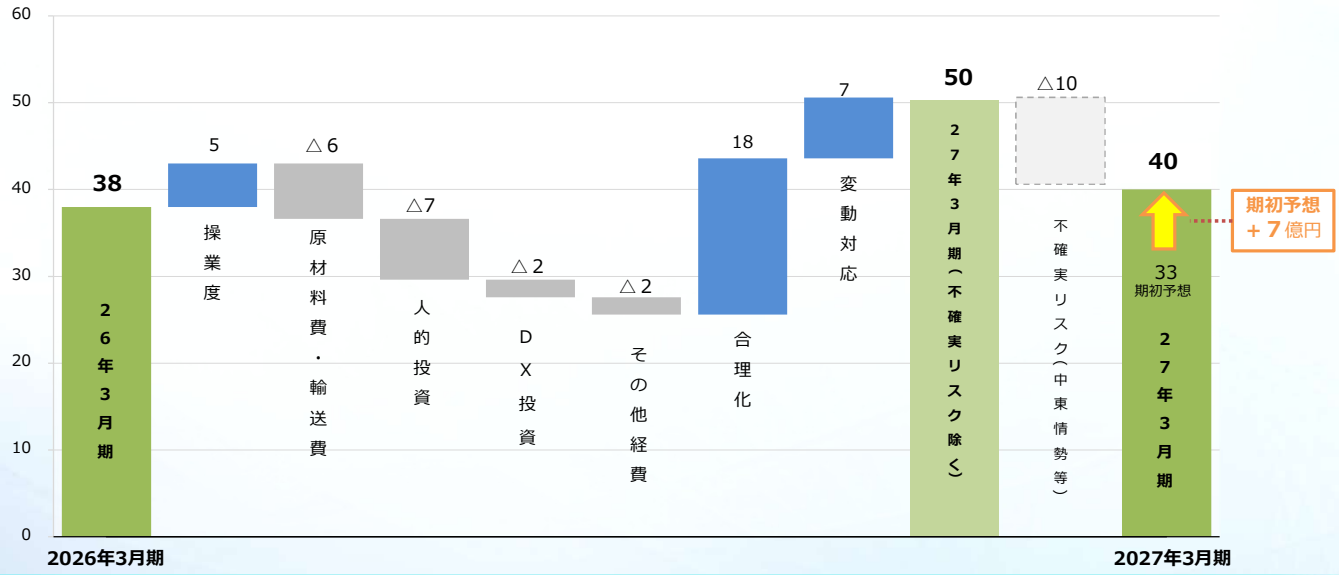
世界情勢、および自動車業界は不透明な状況にあるものの、
次の成長に向けた変革の取り組みを進め、
通期で前期比での増益を達成してまいります。

## 2. 2027年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想



通期業績予想　差異要因 営業利益（前期比）

（単位：億円）




**第3四半期以降は中東情勢影響の悪化が見込まれるが、変動対応と合理化を滞りなく進め、増益を目指す**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

こちらは、2027年3月期の通期業績予想となります。

第3四半期以降は中東情勢影響の悪化が見込まれますが、各事業において取り組んできた合理化、変動対応を主軸とした各種施策を着実に遂行することで、前期比での営業利益増を目指します。

## 3． セグメント別・地域別の状況

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

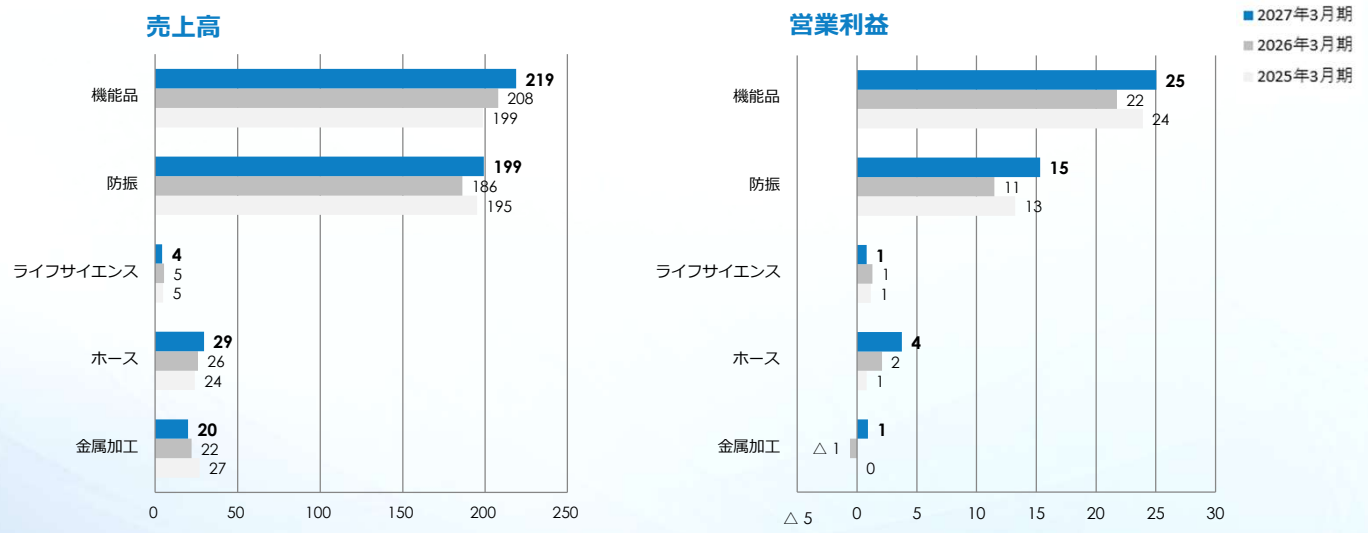
次は、セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。

## 3. セグメント別・地域別の状況



セグメント別（第2四半期）

（単位：億円）
※ 連結調整考慮前




**機能品・防振・ホースが増収・増益、ライフサイエンスは減収、金属加工は事業再編効果により黒字化**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

まず、セグメント別の状況です。こちらのグラフは過去3年間の上期の実績を示しています。

売上高は、機能品事業、防振事業、ホース事業が堅調に推移した一方で、ライフサイエンス事業及び金属加工事業は前年比で減収となりました。

営業利益につきましては、機能品事業と防振事業、ホース事業においては、生産性向上や価格適正化努力および赤字低採算製品の削減の効果が原材料費や労務費等の上昇による影響を上回り、前年比で増益となりました。

一方で、ライフサイエンス事業は、中国における再生医療制度の規制強化に伴う中国向け培地・バッグの受注減が第２四半期に大きく影響したことで減収となり、営業利益についても減益となりました。

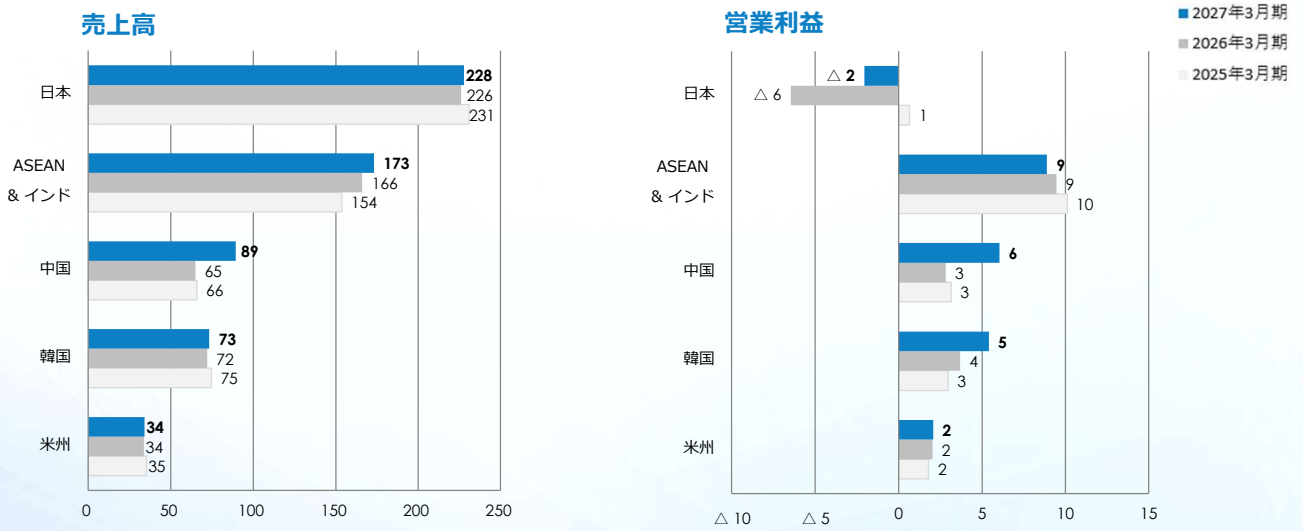
金属加工は採算性向上に向けた事業の選択と集中を進めたことから減収となりましたが、不採算部品撤退による収益性改善に加えて、建設機械関連製品の需要回復や価格適正化努力及び生産性向上の効果によって、黒字転換しております。

## 3. セグメント別・地域別の状況



地域別（第2四半期）

（単位：億円）
※ 連結調整考慮前




**ASEANは中東情勢等による材料費等の高騰や為替の影響で減益。価格転嫁、合理化を進め挽回を図る**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次は、地域別の状況になります。

日本は、価格適正化努力及び赤字低採算製品の削減の効果が原材料費や労務費等の上昇による影響を上回ったこと、および金属加工事業の黒字化によって収益が改善しております。

アセアン・インド地域につきましては、中東情勢等による材料費の高騰や為替の影響が大きく、減益となりました。

中国につきましては、ソリューション提供による拡販に注力している中国系ワイパーメーカー向け製品の受注が引き続き堅調に推移したことに加えて、中国の建機市場の好調により、増収増益となりました。

韓国につきましては、EV向け製品の量産が堅調に推移し増収したことに加えて、合理化などの内部努力によって増益となりました。

第3四半期以降は、中東情勢の影響の悪化を見込んでおりますが、合理化・原価低減を進めることで利益への影響を最小限に抑えるべく尽力してまいります。

## 4. 株主還元

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

続きましてここからは、株主還元について、ご説明いたします。

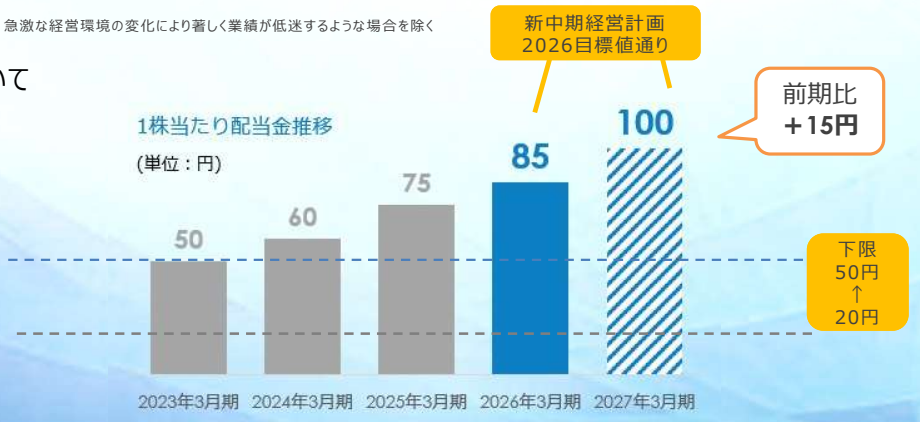
## 4. 株主還元

### 株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- 配当性向を**30%から40%**に、配当金下限を1株当たり**20円から50円**に引き上げる
- 1株当たり配当は、第3四半期以降の中東情勢影響等を見据え、計画通り中間配当**50円**、通期計画**100円**
- DOEも意識しつつ、今後も株主還元の充実を図っていく

※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 配当金について




 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2027年3月期の配当予想につきましては、前回の公表予想どおり、
中間配当50円、年間配当100円といたします。

配当政策につきましては、2027年3月期より基本方針を見直し、
連結配当性向を30%から40%に、
配当金下限を1株あたり20円から50円に引き上げております。

DOEも意識しつつ、引き続き株主還元の充実を図ってまいります。

## 5. 事業の取り組みの進捗

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

続きまして、事業の取り組みの進捗につきましてご説明いたします。

## 5. 事業の取り組みの進捗



### 中期経営計画2026　事業戦略の両輪

#### 既存事業の強化

**ソリューションビジネスによる拡販**

- シミュレーション設計
  ～実車評価技術/中国R＆D強化
- インドR＆D機能設置

**強い成長地域への拡販**

- インド・インドネシアでの技術・生産体制強化

**ものづくり力変革と人材育成強化**

- 革新的工法の構築／自動化／IoT導入
- グローバル人材育成の強化

#### 成長事業・新事業の拡大

**インダストリアル向け製品等の拡大**

| | |
|---|---|
| ファクトリーオートメーション | 精密シールの開発/量産体制の確立 |
| 新エネルギー | 水素燃料用シール・<br>風力発電用着雪防止コートの開発 |
| 航空/宇宙 | 防振マウントの開発 |

**CASE市場への拡大**

| | |
|---|---|
| バッテリー | ・進化し続けるEV製品用ホールドシートの開発・拡販<br>・放熱ギャップフィラー・大型電池用防振製品の開発・拡販 |

**ライフサイエンス製品の拡大**

| | |
|---|---|
| バイオ | 細胞培養バッグ・培地、化粧品原料 |
| 細菌検査 | 薬剤耐性菌検査チップの量産体制確立、拡販 |

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

現在進めております、現中期経営計画の施策は、ご覧の通りになります。

## 5. 事業の取り組みの進捗



### 既存事業の強化 －ソリューションビジネスによる拡販（ワイパー）

**中国市場・上海テクニカルセンター移転による機能強化**

**自動車産業集積地域がある安亭エリアへ移転し、評価設備・試験解析能力を拡充**

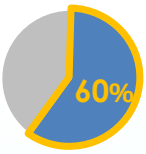
■目的
- 主要顧客との関係強化
- 開発スピードへ対応

■効果
- OEM・ティア1との接点強化
- 開発リードタイムの短縮
  →受注拡大・品質向上

自動車産業集積地域
安亭エリアへ




中国におけるワイパーブレードラバー
販売シェア (2026年当社調べ)





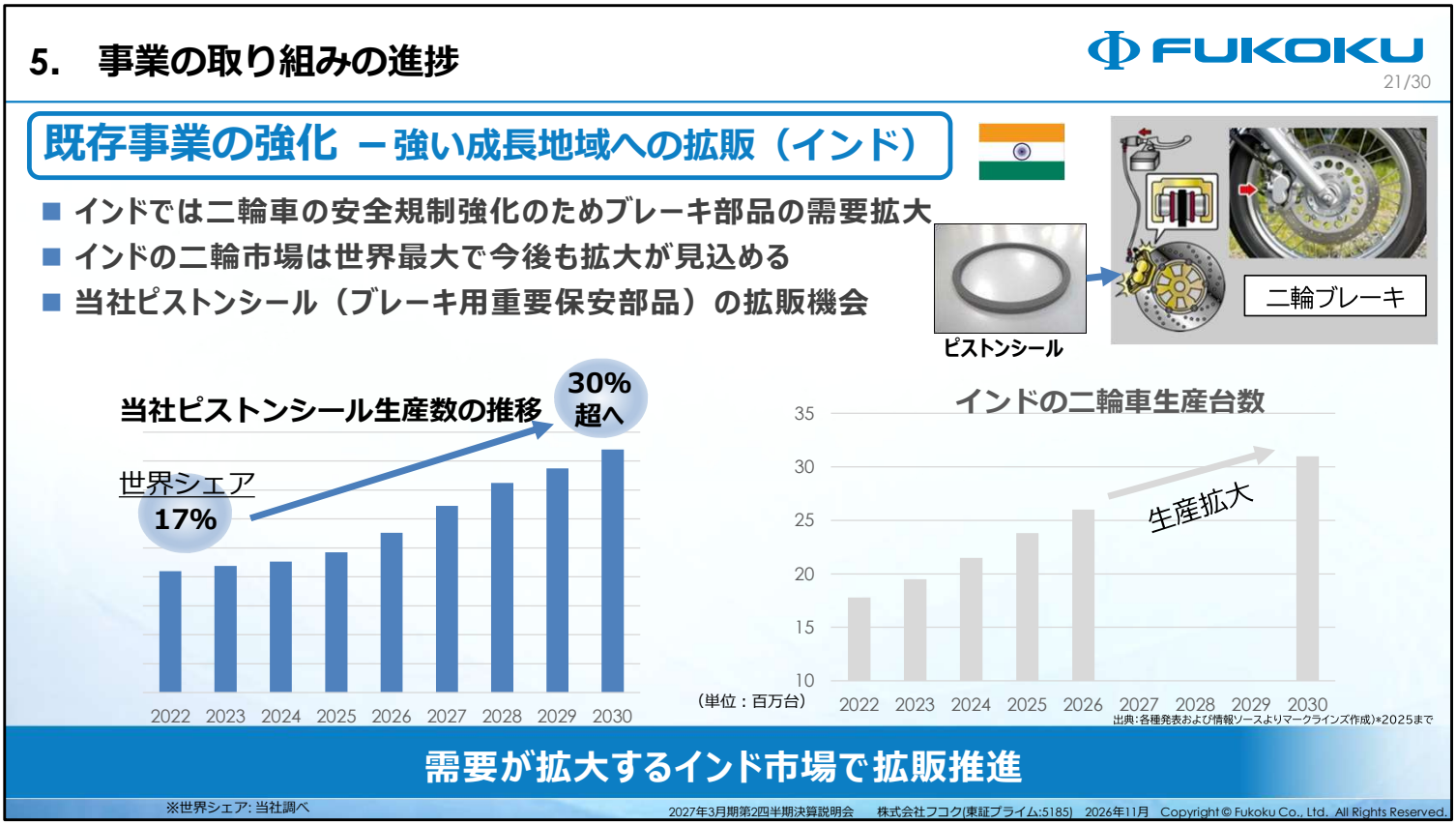

**伸びる市場・地域における「ソリューションビジネス」を強化し、市場シェアのさらなる拡大へ**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

既存事業の強化として、ソリューションビジネスによる拡販を推進しており、特にワイパー事業では、中国市場における事業拡大として、テクニカルセンター機能の強化を進めてまいりました。

さらなる市場シェアの拡大に向けて、主要顧客との関係強化や開発スピードへの迅速な対応を目的としてテクニカルセンターを安亭エリアへ移転し、研究開発、試作設備を拡充いたします。

自動車産業の集積地域がある同エリアで、更に機能を強化して、重要顧客を中心とした自動車産業の開発リードタイムの短縮にも確実に対応してまいります。




強い成長地域への拡販について、インドでの取り組み、特にピストンシールの拡販についてご紹介します。

ピストンシールは当社のシール製品の中でも主要な位置付けのブレーキの重要保安部品となります。

現在、インドでは二輪車の安全規制が強化されており、それに伴いブレーキ部品の需要が拡大しています。

インドの二輪市場は世界最大で、今後も成長が見込まれる重要な市場です。
当社の培ってきた技術を活かし、日系メーカーに加え、外資メーカーへも拡販を図ってまいります。この好機をしっかりと捉え、成長が期待できる市場で基盤を確実に整備し、拡販を進めてまいります。

## 既存事業の強化 －強い成長地域への拡販（インドネシア）

### インドネシア生産基盤の再構築

■現調化要請に伴い、インドネシアの事業
（商用車防振部品・鉄道部品・ホース等）を
効率的に再構築

■インドネシア拠点の統廃合（2027年度に生産吸収予定）
工場を集約して生産基盤をより強固に整備
生産キャパシティを増強して増産対応に備える

■当社インドネシア拠点は順調に成長
（売上高　2021年度36億円 → 2025年度54億円）



フコク東海ゴムインドネシア　集約先の新工場外観





（貨物列車向け）
軸ゴム



一本リンク緩衝ゴム



ホース

**成長市場であるインドネシアで、今後の増産を見据え生産効率向上・キャパ増強**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

続いて、強い成長地域への拡販として、インドネシアでの取組みをご紹介します。

インドネシアでは生産基盤の再構築を進めています。
現調化要請に伴い、インドネシアの主要事業である商用車防振・鉄道・ホースの効率的な生産のため、拠点の統廃合を行います。工場を集約し、生産基盤をより強固に整備し、生産キャパシティを増強して増産対応に備えます。

現在、当社インドネシア拠点は順調に成長しており、今後も拡販を推進してまいります。

## 5. 事業の取り組みの進捗

### 成長事業・新事業の拡大－バッテリー周辺製品

熱マネジメント



**バッテリー周辺製品への注力**

バッテリーホールドシート/ギャップフィラー

**■放熱ギャップフィラー採用モデルの増加**

新たに現代起亜自動車向け**の受注を獲得**
**（27年以降量産予定）**



放熱ギャップフィラー

| | 既存 | 新規受注 | |
|---|---|---|---|
| モデル名 | ◆起亜自動車 EV3<br>◆現代自動車CASPER EV（日本名 INSTER） | ◆現代自動車 PORTER EV<br>◆起亜自動車 PV7 | ◆現代自動車 KONA EV |
| 材質仕様 | シリコーン | シリコーン | シリコーン |
| 量産時期 | 量産中 | 2027年 | 2027年 |

**■ラインアップ拡充、多様なニーズへの対応**

データセンター等を含む各種の
熱マネジメント課題の解決に向けて、
引き続き各地で拡販活動中




 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

続いて、「成長事業・新事業の拡大」についてご説明いたします。

電気自動車への転換速度は地域的に停滞も見られる状況ではありますが、
韓国自動車メーカーの現代自動車向け放熱ギャップフィラーは、
新たに複数のモデルの受注を獲得しております。

カーメーカーに量産実績や技術力を認めていただいており、現在はウレタン製の
放熱ギャップフィラーについても営業活動に注力しております。

また、将来的な電動化の拡大を見据えて、多様なお客様のニーズに応えるべく、
バッテリーホールドシートと放熱ギャップフィラーのラインアップをご覧の通り拡充
してまいります。

引き続き、AIの普及・拡大でデータセンター等の熱マネジメントの課題も
クローズアップされてきており、各種の課題の解決にも貢献してまいります。

## 5.　事業の取り組みの進捗

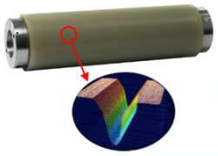


### 既存事業の強化 －ソリューションビジネスによる拡販（ウレタン、シール）

**半導体シリコンウェーハ製造用ワイヤーソーのウレタンローラー世界トップシェア（防振セグメント）**

**■半導体需要増に伴い製造装置の需要の好調を受け、当社ウレタンビジネスも伸長**

・一貫生産でお客様のトータルソリューションに対応し、
　国内の大手製造装置メーカーに採用
・当社の独自開発技術で長寿命化と大物成型を実現
・台湾の半導体装置メーカーからも受注を獲得



インゴットワイヤーソー用メインローラー



ワイヤーソー用ローラー、ウレタンプーリー

**半導体製造装置のシール部品拡販（機能品セグメント）**

**■半導体製造装置の需要の好調に伴い**
**　当社シール部品も拡販を図る**

・原価低減による価格競争力強化
・グローバル供給体制の活用





**半導体関連の売上の拡大、新規顧客の獲得、事業領域拡大を目指す**

Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、半導体関連製品をご紹介いたします。

当社のウレタン製品は、世界30%のトップシェアを持つ
半導体シリコンウェーハ製造用のワイヤーソーのウレタンローラーを中心に、
今期の半導体需要の増加に伴い、売上が伸長しております。

また、半導体製造装置向けのシール部品も拡販を強化しており、
売上の拡大と新規顧客の獲得を目指すとともに、
半導体関連分野でのさらなる事業領域の拡大を図ってまいります。

## 成長事業・新事業の拡大－ライフサイエンス

### 中国における液体培地製造を開始

■東莞富国内に**医療機器２類対応可能な最新液体培地製造施設**を建設中
（2027年7月生産開始予定）



リンパ球用培地



MSC培地










**世界最大市場の中国で現地生産を強化し、拡販を目指す**

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、ライフサイエンス製品の拡大についての取り組みをご説明いたします。

バイオ製品においては、現在、中国の東莞フコク内に医療機器２類対応が可能な「液体培地製造施設」を建設しており、2027年7月に生産を開始する予定です。

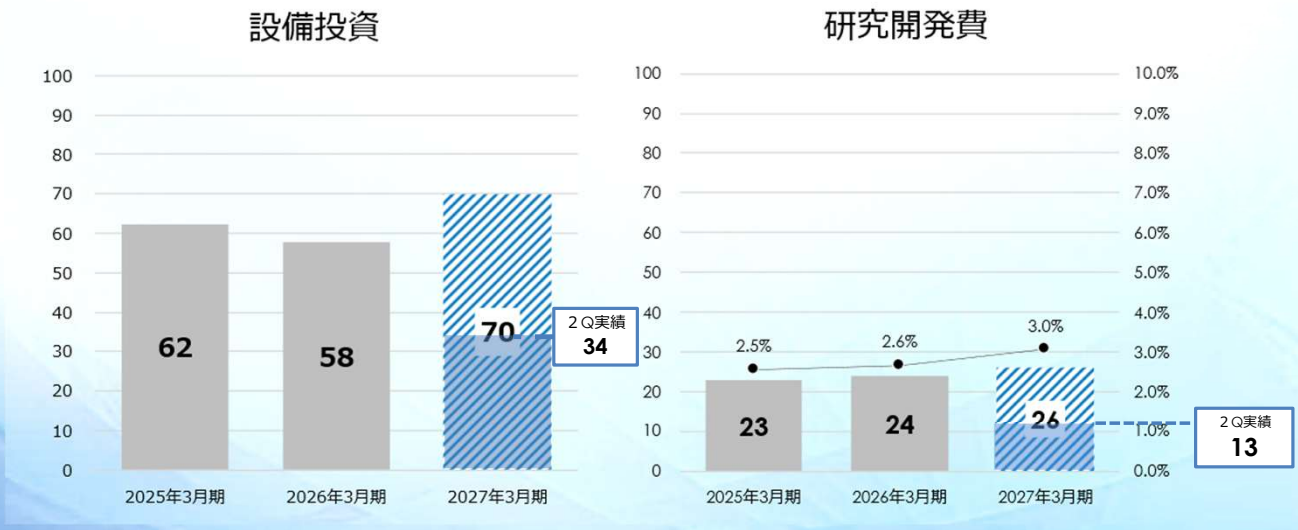
世界最大市場である中国において現地生産を強化し、拡販を目指してまいります。

## 5.　事業の取り組みの進捗



### 設備投資、研究開発費

単位：億円
売上高比率




**営業キャッシュフローの大半を設備に投資、開発費も計画通り推進中**

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、設備投資、研究開発費につきましては、
2027年3月期は必要な設備投資や研究開発費を織り込んだ計画としており、
中間期の時点では、計画通り進捗しております。

引き続き、次の成長に向けた基盤の強化を図ってまいります。

## 6. 次期中期経営計画に向けて

 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

最後に、次期中期経営計画に向けてご説明いたします。

## 6. 次期中期経営計画に向けて



次期中計に向けて

今期は持続的成長のための強固な事業基盤構築を最優先とし、事業運営の強化に励む。

2026年度を変革フェーズと位置づけて、
稼ぐ力の更なる向上、市場戦略強化、モノづくり力強化、M&Aも活用した新規事業の立ち上げを
重点項目として変革に取り組んでいる
第2四半期は特に「稼ぐ力の更なる向上」、赤字・不採算製品の削減、原価低減の推進が奏功。

これら2026年度の変革フェーズの取り組みを発展的に継続し、
今後公表予定の2027年度を初年度とする次期中期経営計画において、
**稼ぐ力の強化を軸に収益性・資本効率を高め、持続的成長と企業価値向上を目指す。**

長期的には、**当社独自のコア技術で高付加価値商品やソリューションを提供する**ことで、
サステナブルな社会の実現に貢献できる“心から愛される企業”を目指す。

2027年3月期第2四半期決算説明会　株式会社フコク(東証プライム:5185)　2026年11月　Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

今期は「持続的成長のための強固な事業基盤構築」を最優先課題として、
事業運営の強化に取り組んでおります。

2026年度を変革フェーズと位置づけて取り組んでおり、
第2四半期は、特に「稼ぐ力の更なる向上」に向けて赤字・不採算製品の削減、
原価低減を推進し、効果が表れております。

2026年度の変革への取組みを踏まえ、今後公表予定の次期中期経営計画においても
変革を継続し、稼ぐ力の強化を軸に収益性・資本効率を高め、持続的成長と
企業価値向上を目指します。




フコクは、常に挑戦を続け、時代の変化に柔軟に対応し、
サスティナブルな社会の実現に貢献できる「心から愛される企業」 を
目指します。

今後ともご指導、ご支援を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。
以上で、終了させて頂きます。本日は誠にありがとうございました。

FUKOKU

# Yes, We Do!

**注意事項**

- 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

2026年11月18日　株式会社フコク

Copyright © Fukoku Co., Ltd.  All Rights Reserved.